

■ 教育目的

この授業では、大学生活や卒業後のそれぞれの状況において必要とされる技能のうち、文章および言葉に関わるさまざまな側面を扱い、学生各自が実際に表現していく能力を高めていくことを目的とする。

文章表現の基本的なルールを身につけた上で、他者の文章や話を理解し、それに対する自分の考えをわかりやすく伝えていく力を、要約・意見・感想を書くことや口頭でのプレゼンテーション等、PBL や SGD も含めた各種演習を通じて養う。

■ 学習到達目標

1. 「書き言葉」と「話し言葉」の違いを確認し、状況に応じた適切な言語表現ができるようにする。
2. 課題を理解し、それに対する自分の考えを他者に伝える能力の基礎を身につける。
3. 「書き言葉」を中心としつつも、学習の場や生活の場での言語表現の豊かさを見出す力を養い、コミュニケーションにおける言語表現・非言語表現それぞれの重要性を知る。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：あらかじめ指定された教科書の該当部分を読み、課題に関する意見をまとめておく。(30分～40分)

復習：教科書や配布物を見直し、提出課題の添削部分を確認する。(40分)

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1～3	「書き言葉」の基礎	・「書き言葉」と「話し言葉」の違い ・文章表現のルール ・わかりやすい文章の特徴 <テキスト第1章・補章>	
4～9	相手の主張の理解とそれに対する自分の考え	・要約文 ・意見文 ・感想文 <テキスト第2章>	
10～13	説明の方法	・手順の説明 ・データの説明 ・業学に関する事象の説明 <テキスト第3章・第4章>	
14～15	自分の考えの伝え方	・「書き言葉」再考 ・「話し言葉」とプレゼンテーション ・非言語コミュニケーション <テキスト第5章・第6章>	

■ 授業分担者

林 弘美 (No.1～15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

- ・テキストの練習問題に取り組むことで理解度を確認し、解説等によりフィードバックを行う。
- ・授業時に提出された課題を添削し、翌週返却する。
- ・授業に対する参加度（20％）、課題の提出状況（30％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。

■ 教科書

森下 稔（編集代表）『理工系学生のための日本語表現法（第三版）』（東信堂、2016年）
その他、適宜プリントを配布する。